

保健体育科学習指導案

1 単元名 E 球技(2)「ベースボール型」ソフトボール

学 級 3年A・B組 男子 (27名)
場 所 グラウンド
授業者 萩原 志英

2 指導の立場

(1) 単元について

【○運動の側面】

ソフトボールは、2つのチームが攻撃側と守備側に分かれ、規定回数内で攻守を交代しながら、勝敗を競い合い、楽しさや喜びを味わうことのできるスポーツである。投げる・打つ・捕る・走るなどの基本的な技能から構成され、バランスのとれた運動能力を養うことができる。また、プレー中に間が生じるという種目の特性があるので、状況に応じて作戦や戦術を選び攻防を行うことができる醍醐味もある。しかし、ゲームにおける触球回数が他の球技より少なく、経験や運動能力の差によってポジションが固定される傾向がある。また、攻守がはっきり分かれているため、一単位時間でゲームに当てることのできる時間も限られる場合がある。ポジションやゲーム展開によっては極端に個々の触球数に差が出てきてしまふことが考えられる。そのため、第3学年男子では、小集団での基礎練習を毎時間位置付け、基底技能の定着を図っていききたい。基底技能の達成や技能の伸びが、一人一人の自信になり学習に対する前向きな姿勢づくりや運動への喜びを喚起していくことにつなげたい。

【● 集団の側面】

ソフトボールの個人技能や、集団技能を身に付けるための練習ゲームを効率よく行うには、仲間が揃って素早く行動できることが大切である。また、一人一人が自分の役割を確実に果たすことや助け合って協力することが要求される。2学期のこの時期まで、「一人一人の力を生かして学習できる体育の集団づくり」を目標に仲間関係づくりをしてきたことから、うまくできない仲間やわからない仲間に対して、積極的に声掛けができ、仲間を励ます関係がつけられてきている。しかし、「主体的にという部分では、教師の指示がないと具体的な声かけができない生徒や、自らアドバイスを求めにいくことができない生徒も何人かいる。」教える側だけでなく、教えてもらう側の双方の関わりを高めいくことが今後の課題である。また、運動を得意とする者のみでプレーをしようという傾向に流されないようにするためにも、スポーツ本来に込められている、仲間と協力する中で生まれる喜びや達成感を全員が味わえるように、練習から班内で仲間のプレーを見合い、できるようになった成果を確かめ合いながら認め合うことを通して、さらに質の高いグループづくりを目指していききたい。

(2) 生徒の実態について

【○運動の側面】

体育の学習では、どの生徒も意欲的に活動に取り組む姿がみられる。ソフトボール経験者はいないが、野球経験者が4名在籍している。2年時のソフトボール学習では、「基本的なボール操作やバット操作を身に付け、仲間と連携し合って攻めたり、守ったりすることができる。」を単元を貫く学習課題にした。バッティングのタイミングや捕球から送球のタイミングを計る為に「1・2・3」などの声かけを仲間同士で行い。基本動作の習得を図った。具体的な声掛けのポイントや教師の示範によって、攻撃では、強い打球で打ち返したり、守備ではボールを捕球し仲間と連携し合ってアウトを取ることができるようになった。しかし、意図的にランナーを進塁させたりするなど戦略的にゲームに取り組み、点を取りに行く場面は多くは見られなかった。3年生では、2年時の反省を生かし、「作戦に応じたボール操作で攻撃や守備を行い、仲間と連携したゲームができる」を単元の課題にすることで運動の取り組み方を工夫できるようにしたい。

【●集団の側面】

「ソフトボール」の単元に入る前には「鉄棒」の学習をした。これまでの学習では、素早い集合・整列、話を聞く姿勢、返事（反応）などの基本的な学習規律を身に付けた。また、苦手なことに対しても前向きに取り組もうとする生徒や、課題解決に向け教師の言葉に対して素直に取り組もうとする生徒が多くいる。

リーダーを中心に、道具の準備を協力して行う姿や課題の達成に向けて、苦手な仲間とペアを組み積極的に教え合いをする姿が多く見られる。集団の発達段階としては、「協力—教え合い、励まし合いができる」段階の生徒が多数であるため、今回の単元は、特に仲間と連携した関わり合いが必要になってくる単元であるため、「連帯：一人一人の力を生かして学習できる」グループ活動を目指していきたい。

<研究主題>

主体的・対話的な学びを通して、たくましく自分を表現し「確かな学力」を身に付ける生徒の育成

3 研究主題とのかかわり

<研究内容>

I 主体的・対話的な活動を位置づけた単元指導計画の工夫

②「教科に対する関心・意欲・態度」をどのように育てるかを明確にした単元指導計画

生徒が学ぶ必然性を主体的に考えることができれば、意欲的に学習に取り組むことができると考えた。そのため、本単元では毎時の課題を達成することで、次の課題に向けての技能習得の必然性を生み出すことのできる単元構造を工夫した。まず、単元を貫く課題は、「仲間との連携やゲームの展開に応じた作戦で攻撃や守備を行い勝利を目指す」と設定した。例えば、4時・5時では打撃の技術が向上することによって、ゲームで点が入るようになってくると、「守備を高めて失点を抑えていく必要がある」という生徒の気づきが生まれると予想される、そこから生徒の意欲や学ぶ必然性を生み出していきたい。また、グループ会で意図的に、仲間との交流活動を仕組むことで、課題を確認し合い、お互いに学び合っていく集団性を育てたい。

II 主体的・対話的な活動を位置づけた単位時間の工夫

①主体的・対話的な学びを生み出すために、導入を工夫した単位時間の学習活動

生徒が課題意識をもって学習に臨むためには、「課題提示・技術ポイント・練習方法」の3つが重要になってくる。その中でも、課題を生徒の考えや気づきから生み出すことが大切であると考えた。例えば、学習カードの振り返りや、これまでのゲーム記録から学習場面を振り返るなどして、生徒の発言から課題を引き出していけるようにする。本時では、前時の課題である「強い打球を打つ。」ということ意識したゲーム内容で、点を取ることができなかった場面を振り返り、点を取るために作戦を考えることや好き勝手に打ち攻撃するという単調な思考から、「場面に応じた攻撃をチームで行うことが大切である」というように考えさせ、本時の課題である「状況に応じて、バントや進塁打を打ってつないで全員で点を取る。」という考えを導いていきたい。

III 主体的・対話的な活動を生み出す学習環境づくり

②主体的・対話的な活動を支える教科の学び方と教室環境

これまでの保健体育科の学び方として、リーダーやPO、MOを中心にグループの実態にあった課題提示や個人課題の交流を、生徒自身が自ら考え行えるように位置づけてきた。また、本単元では、ボールを扱うため安全性を高めることも重要になる。安全性を高めるとともに仲間同士の相互援助活動を効率よく行うために仲間の動きが見える位置にアドバイザーを配置し、ICT機器を活用し動きを撮影するなどの環境を意図的に教師が整えた。

4 単元指導計画

(1) 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 運動の向上、勝利のために練習やゲームに進んで取り組もうとする。 チームの中での自分の役割を自覚し、その責任を果たし、互いに協力し練習やゲームをするとともに、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。 ボールやバットなどの用具を使用する際に、周囲への安全や用具の管理をする。危険なプレーをしないよう周りに目を配り、練習やゲームに参加するなど、健康や安全に留意しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 打撃や守備などで、自分の技能を理解し、練習の内容を考え、自己課題を持つことができる。 自分やグループの進捗や技能レベルに合わせて、練習の進め方や仲間との教え合いの方法を工夫したりしている。 グループ練習やゲームの結果、データをもとに、自分の姿を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 腰の回転と後ろ足の強い押しつけを活かし、強い打球を打つことができる。 ボールの正面に素早く入り、捕球し素早く送球態勢に入り送球することができる。 作戦に応じたボール操作で攻撃や守備を行い、仲間と連携したゲーム展開ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボールの技能ポイントや授業全体の流れを理解し、練習やゲームをすることができる。 ソフトボールのルールを理解し、審判やゲームにのぞむことができる。 ソフトボールの審判の方法を理解し知識を身につけている。

【「球技」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 球技の特性に関心を持ち楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組もうとする。またチームにおける自分役割を自覚して、その責任を果たし互いに協力して練習やゲームをしようとする。勝敗に対して公正な態度をとろうとする。さらに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題や自分の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したりして練習やゲームの仕方を工夫している。 ゲームの結果から、チームや自分の新たな課題を明らかにし、技能の向上に伴う新たな練習の仕方を選んだり作戦を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択した競技種目の特性に応じた技能を身につけ、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。 相手チームに対応した作戦でゲームができる。 今もっている技能を発揮してゲームを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 球技種目の特性や学び方、技術の構造、合理的な練習の仕方を理解する。球技や審判の方法を理解し知識を身につけている。 競技の運営やルール、審判の方法を知っている。

(2) 単元指導計画

第3学年 男子 ソフトボール 全12時間

- 単元目標 ○作戦に応じたボール操作で攻撃や守備を行い、仲間と連携したゲームができる。
●グループの勝利のために、相手の立場に立って教え合いや励まし合いができる仲間。

時間	過程	学習内容		学習活動	教師の評価と指導	
		運動	集団	運動・集団	運動	集団
1	計画	作戦に応じたボール操作で攻撃や守備を行い、仲間と連携したゲーム展開ができる。	グループの勝利のためにお互いに真剣になり、相手の立場に立って教え合いや励まし合いができる仲間になることができる。	・教室でリーダーを中心に集まって座る。 (13人 or 14人) ・役割、準備等の手順を確認する。	○単元計画を示し、目指す姿とそれにせまるステップを説明する。 ・準備運動や3分間学習の内容を説明し、次時からの活動がスムーズにできるようにする。	●目指す仲間の姿を具体的に語りイメージさせ、班内で交流し合う。 ●グループで協力してチームワークを大切にすることが勝つことにつながることを伝え、集団の目標を班内で考える。
2	展開	○2年時の学習内容を確認し、基本的なバット操作や打球処理ができる。	積極的に仲間と教え合い、協力し合い、学習できるグループになろう。	○相手の投球に合わせてスイングをし、強い打球で内野の間を抜くヒットが打てる。 ○打球の正面に入り捕球し、アウトを取ることができる。	○2年時の既習内容を確認し、まずそこにこだわる大切であることを話す。 ○基底技能につまづきの大きい生徒には直接指導する。	●集合が早くできるグループのリーダーの働きをほめ、全体会で認めていく。 ●協力して練習しているグループを認め価値付ける。 ●技能の劣る仲間に対して強い言い方をしてしまう生徒には、その生徒の努力する姿や頑張ろうとしている気持ちを考えさせる。
3		○練習ゲームを通して、課題を見つけることができる。	●リーダーの指示でまとまって活動できる。 ●ペアや小グループで、積極的に教え合いができる。	■ゲームを通して、自分やチームの実力を知り、課題を見つけることができる。		●お互いの成長を願い、ミスをしてでも責めず前向きな声かけができる。 ●呼びかけが命令にならないように留意し、仲間に対する誠意のある関わり方を指導する。
4 5 (本時)		○腰の回転と後ろ足の強い押しつけを活かし、強い打球を打つことができる。 ----- ○攻撃の状況に応じて、送りバントや進塁打など点を取るために工夫した攻撃を行うことができる。	仲間との連携を大切に学習できるチームになろう。 ●うまくできない仲間に本気になって教えることができる。 ●グループ活動に積極的でない仲間に、協力して頑張れるよう声をかけることができる。	■バントやヒッティングで一塁ランナーを進塁させることができる。 ○ボールの勢いを殺したゴロを転がすことができる。(バント) ○投球された球とのタイミングを合わせ、野手の動いた所や、逆方向に打ったりすることができる。(ヒッティング)	○学習カードや試合の場面を振り返り、点を取るためには、ランナーを得点圏に進めることが大切であるということを説明する。 ○ボールの上を叩き、ゴロを打つことがランナーを進塁させることに近づくことを指導する。	●呼びかけが命令にならないように留意し、仲間に対する誠意のある関わり方を指導する。
6 7	○常に低く構えた姿勢からボールの正面まで最短距離で移動し捕球し、正確に送球することができる。 ----- ○状況に応じて、積極的に前のランナーをアウトにしたりダブルプレーを取ることができる。	●必死になってうまくなろうと努力することができる。 ●教えてくれたり、励ましてくれたりしてありがとうと言うことができる。	■ダブルプレーを積極的に狙い、前のランナーでフォースプレーを取ることができる。 ○素早くボールを捕球し、タイミングよく送球したり、仲間と連携して中継することができる。	○打球処理が苦手な生徒には、つま先の向きがあげたい方向に向くことを意識して練習するように話す。 ○ボールに上手く当たらない生徒には、タイミングの声かけや動き一緒にやってあげることでヒッティングのイメージをさせる。	●うまくできない仲間にたくさん練習させ、親身になって教えたりする仲間を目指させる。 ●「勝ち」にこだわってメンバー一人一人にアドバイスする姿を価値付け、全体に広める。	
8 9 10 11	○これまでの練習の成果を発揮してリーグ戦ができる。	●うまくできない仲間に親切に教えたり、励ましの声をかけたりできる。	■勝利に向けてチームで作戦を立てることができる。 ○積極的に攻めたり、守ったりすることでリーグ戦の勝利に向けてゲームをすることができる。	○ボールが前に飛ばない生徒にはボールをとらえる位置を確認させて、自分のポイントまでボールを引き付けて打つことを助言する。		
12	評価	○目指す運動の姿、になれたか振り返ることができる。	●目指す仲間になれたか。	■公式戦 5回ゲーム	○グループや個人の伸びを認める。	●グループに貢献した仲間を具体的な事実を通して全体の場で認めていく。

5 本時の展開<5/12>

運動面：ピッチャーの投げた球にタイミングを合わせ、バントや進塁打を打つことができる。

集団面：仲間の上達を願い相手の立場に立って教え合ったり励ましあったりできる仲間になる。

条件 課程	学習内容・学習活動		教師の指導と評価	
	運動	集団	運動	集団
計画 画面	3分間学習 ・トスパッティング (ゴロ) × 5本 1 全体計画会 ・前時のゲームで、バッターが出塁した場面を振り返り、点をとることができたかを全体で交流する。そこから、点を取るための課題を考え発表できる。 ・作戦に応じた攻撃ができていたかを、チームという視点からも考えることで、運動面の課題とつなげて考えることができる。 ○前回は、ただ打つだけで点が入らなかったけど、ランナーを進塁させる打撃をして、次のバッターにつなぐことで点を取るチャンスは広がるんだ。 ●チームで作戦を考え、状況に応じたバッティングを行い、仲間と協力することでチャンスが広がり、点をとることができる。		【評価規準】 ボールを引きつけて、送りバントや進塁打を打つことができる。 【全体計画会】 ・前時の「強く打つ」というゲームの一場面から発問をし、生徒の発言から出た言葉で本時の課題確認を行うことができる。 ・教師の示範から、技術ポイントを掴むことができる。 生徒の学習状況 (B) バットをボールに当て、打ち返すことができる。 「1・2・3」の声をかけ、スイングさせボールに当てるタイミングをつかめるよう支援する。	
	運動：ピッチャーの投げた球にタイミングを合わせ、バントや進塁打を打つことができる。 集団：細かなポイントまでこだわりアドバイスをしたり、状況に応じた指示を出すことができる。			
展 開	前半練習 ・バント練習 ・ハーフバッティング ・個の進度に合わせて、ミートが難しい生徒にはT台を使用する。 	◆グループ練習 ・打つタイミングの声かけや1スイング1アドバイスをすることができる。 ・大きな声で、ボールを呼んだりチームを盛り上げる声をかけることができる。	右方向 ・前足をベース側に踏み込み打つ練習をさせる。 左方向 ・前足をやや開き、打つ練習をさせる。 Aへの手立て 右方向 ・球を引きつけて、ボールを上から叩くように打つ。 左方向 ・体を回し、バットを体の内側から出すように練習させる。	●互いに身振り手振りを使って、アドバイスを送り合う姿をほめる。 ●うまくできない仲間、具体的な声をかけることやできるまで繰り返し行うことが大切であることを助言する。 ●うまくできない仲間に対して、親身になって関わっているグループを価値付け、全体を広める。 ●班やグループでまとまって活動しているグループをほめる。 ●グループ内において声で指示を出し合いながらプレーし、ミスをした時には、積極的に励ましの声をかけ合うようにする。 ●仲間の動きをほめ、よさを認める雰囲気や姿を通して集団を高める。
		・自己課題を意識し、繰り返し練習する。 3 中間研究会 ・ゲームに向けての動きの確認や練習での課題の確認をする。 ・自分達の練習を振り返り、練習ゲームでの動きを確認する。 4 練習ゲーム ・攻撃は、全員が打席に入り、アウトカウント関係なく、全員で何点取れるかを競い合う。 ・作戦をチームで考え、確認する。 ・積極的にストライクをスイングして、強い打球を打つことができる。	①ヒッティング 【右打者】：タイミングを遅らせ、右方向に流して打つ。 【左打者】：タイミングを早く取り、ボールをとらえ右方向へ引っ張る。 ②バント ・バットを投手に向けて構え、ボールに当てて、転がすことができる。	生徒の学習状況 (A) の一例 ・ボールのコースに合わせてタイミングをとり強い打球を狙ったところに打つことができる。 「1・2・3」のリズムでタイミングを合わせボールにミートさせることができる。
評 価	反省会 5 グループ反省会 ・目指す姿ができたか振り返る。 6 全体反省会 進塁打でランナーを得点圏に進めたり、バントで次のバッターにつなぐことができた。その結果、チャンスをつくれり得点を取ることができた。	・学習の成果を生かし、ゲームにおいて場面に応じた自分の役割を果たすことができたか振り返る。 ・練習でやったつなぐ攻撃ができていたか、技術ポイントを捉えたアドバイスができる。 ・作戦に応じて、仲間と声をかけ合い自分の役割を果たすことができる。	・バッティングの技能が高まったことへの実感 ・勝つために作戦を考え、後ろのバッターにつないで攻めることの重要性の実感の確認をし、作戦を考えたゲームの有効性を実感できる。	・目指す仲間に向けて、動きが見られたグループや個人を認め、全体に広める。